



# 遺跡が語る聖書の世界

長谷川修一 著

◆四六判・320頁・定価2200円  
モノから見えてくる暮らしと社会の真相

聖書の世界の人々は、どんな住まいに住み、いかなる食生活を送り、何を着て装っていたのか？ また彼らが使っていた貨幣や暦は？ 戦争ではどんな武器を使っていたのか？ 聖書考古学の第一人者が、古代の人々の暮らしと社会をめぐる興味尽きないテーマを楽しく解説。聖書の読み方がいちだんと深くなる。



コラジンのシナゴーク跡 (著者撮影)

## 【目次より】

12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
市壁	会堂	エルサレム神殿	紀年法と貨幣	碑文	オリーブ	パン	ファッション	ビール	ワイン2	ワイン1	住まい
24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13
戦争3	戦争2	戦争1	葬送と墓制3	葬送と墓制2	葬送と墓制1	交易	音楽	契約	印章	列柱付き建造物	市門

長谷川修一 (はせがわ・しゅういち)

1971年生まれ。立教大学文学部教授。筑波大学大学院博士課程単位取得退学。テル・アヴィヴ大学大学院ユダヤ史学科博士課程修了。専門はオリエント史、旧約学、西アジア考古学。著書に『聖書考古学』『旧約聖書の謎』(中公新書)、『ヴィジュアルBOOK 旧約聖書の世界と時代』(日本キリスト教団出版局)、『歴史学者と読む高校世界史』(共編著、筑摩書房)、『謎解き聖書物語』(筑摩書房)、『旧約聖書〈戦い〉の書物』(慶應義塾大学出版会)など。

8月26日発売

● 6 月刊行

# 100 年前のパンデミック

日本のキリスト教はスペイン風邪とどう向き合ったか  
富坂キリスト教センター編 各教派や学校の機関紙誌、また

教界指導者たちの日記を徹底的に読み込み、当時のキリスト者が、スペイン風邪についてどのように考えていたのか、また教会としてどのような取り組みをしていたのかを探った共同研究。 ◆ A5 判・定価 1650 円

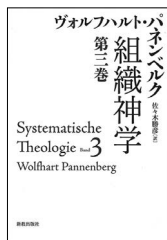


● 5 月刊行

# 組織神学 第三卷

ヴォルフハルト・パネンベルク著／佐々木勝彦訳

パネンベルクの主著、全3巻。キリスト教の真理要求を保持しつつ、歴史的省察と体系的省察とを結合し貫徹しようとする批判的・方法的意識に貫かれた叙述。第三巻は、終末論的な賜物として霊に関する教理の中で、教会論が徹底的に詳論、展開される。 ◆ A5 判・定価 13200 円



● 5 月刊行

# 正教の道

キリスト教正統の信仰と生き方

主教カリストス・ウェア著／松島雄一訳

現代人のための信仰案内として古典的定番の待望の邦訳。正教の教を簡潔に説き、古代の教父、現代の著作家、正教の祈祷文から豊富な引用を行い、その霊性の広さと深さを具体的に伝える。 ◆ 四六判・定価 2530 円



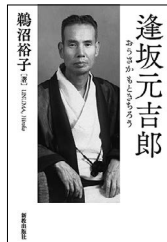
● 4 月刊行

# 逢坂元吉郎

鵜沼裕子著

◆ 四六判・定価 2420 円

壮年期は宗教ジャーナリストとして健筆をふるうが、国粹主義的な宗教団体から受けた暴行による大患を機に、後半期は独自の教会論や聖餐論を展開した逢坂。日本キリスト教史上に異彩を放ちつつも、大勢からは顧みられることの少なかったこの人物の生涯と思想。



奥田知志著

## コロナの時代に聖書を読む〔仮題〕

2020年のイースター礼拝から始まった「コロナ禍で聖書を読む」連続説教。YouTubeで配信され大きな反響を呼んだ15回の説教を収録。人々の間を分断する大きな壁に、福音の言葉が穴を穿つ。

ジャン・カルヴァン著／森川甫訳

## 共観福音書註解 下

マタイ・マルコ・ルカの三福音書を対観しながら記された註解書。福音書の「調和」を見出そうとする改革者の情熱。上巻の刊行から36年ぶりの邦訳完結となる。

ジャック・エリユール著／新教出版社編集部訳

## アナキズムとキリスト教

キリスト教信仰の立場から鋭利な技術社会批判を行った著者の、晩年の最重要著作。「人間性を擁護する唯一にして最後の防衛手段としてアナキーを肯定することが必要だ」と主張する。

原口尚彰著

## ローマの信徒への手紙 下巻

ディアスポラ書簡という文脈に置き直し、編集史的観点と共に修辭学的・書簡論的分析を通して、著者と読者とのコミュニケーションの中でいかなるメッセージがやり取りされたかを精緻に解明する。

A5判・予価5000円

●7月に出た本と雑誌

## 日はかすまず 気力は失せず

関田寛雄著 講演・論考・説教



関田寛雄

講演・論考・説教

モーセのごとく 使命に生きる 使徒

著者は牧師として常に差別される人たちに寄り添いながら教会を形成し、実践神学者・教育者として多くの説教者・牧会者の育成に努めてきた。本書は、40余年の間に語られた47編の講演・論考・説教を収録。93歳になる著者を現役の牧会者・説教者・神学者として生かされる福音の核心を、余すところなく伝える。

◆四六判・定価2200円

## テモテ・テトス・ファイルモン書

カルヴァン新約聖書註解XII 堀江知己訳

牧会書簡(テモテI・II、テトス)およびファイルモン書の4つの書簡の註解を収める。いずれも1550年前後の作品。長老や監督など初代教会の職制に関するカルヴァンの読み解きは驚くほど自由で興味深い。

◆A5判(並製)・定価4730円

◆A5判(上製)・定価6380円

## 福音と世界

◆定価6600円

## 8月号 生きるためのフェミニズム2 ―何に抗するか

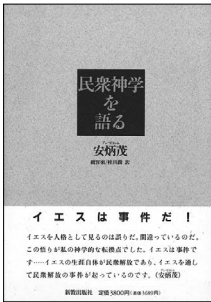
寄稿者・菊地夏野、林みどり、大橋由香子、井谷聡子、村上潔／渡邊さゆり、金在原／田崎英明、村澤真保良、有住航、栗田隆子、金迅野、土井健司、好井裕明、辻学

●今月の『福音と世界』の特集は、イヴァン・イリイチやポール・ヴィリリオといったキリスト教信仰をもつ技術論者たちの再評価を試みる「技術との対話」です。そして、こうしたキリスト教的技術批判の系譜で無視しえない位置を占めるのが、ジャック・エリユールです。いわゆる科学技術社会論で言及されるに留まり、日本語圏ではいまほとんど読まれていないかもしれません。ですがその存在は、戦間期フランスの思想運動・非順応主義との共鳴にはじまり、シチュアシオニスト・インターナショナルとの接触やエコロジ―闘争への参与、イヴァン・イリイチとの直接的な影響関係など、思想的に再評価・検討されるべき点に満ちています。とりわけ、すでに絶版となっている多くの邦訳書にも通底する、エリユールのアナキズム的な思想をどのように理解するのか。その意味で、九月刊行の『アナキズムとキリスト教』は決定的に重要な一冊です。諸般の都合で異例の「編集部訳」にはなりましたが、結果的に匿名性を帯び、近年の「不可視委員会」さながらのアナキズムっぽさ(?)が出ているともいえるかもしれません。もちろん、訳文は可能なかぎり質の高いものを目指していますので、ぜひ『福音と世

界』九月号と合わせて手に取っていただければと思います。その反響をみながらエリユールをさらに再評価・紹介していきたいというのは、わたしの密かな目論見です。(堀)

●装丁家の桂川潤さんが七月五日に急逝されました。多くの出版社から依頼が殺到する人気装丁家で、小社も実にたくさんの本を手がけてもらいました。現在の『福音と世界』も桂川さんの設計です。亡くなる日の朝は関田先生の「目はかすまず気力は失せず」のラフを送ってくれました。翌朝訃報を聞いたときは信じられませんでした。左は、彼がまだプロの仕事になりました。右は、彼がまだプロの装丁家になる前に作った『民衆神学を語る』(小社刊)です。最初から抜群のセンスでした。ちなみに桂川さんはこの本の訳者でもありましたので自装本となります。それ以来の長い付き合いを振り返り、ただ感謝の気持ちでいっぱいです。

(小林)



『民衆神学を語る』安納茂著  
 イエスは事件だ！  
イエスを人勝として見るのは誤りだ。間違っているのだ。この書が私の神学的な私観点でした。イエスは事件です。イエスの生きた自らが民衆神学である。イエスを論じて民衆神学の生きた事象です。(安納茂)  
 書籍目録: 32500円(税込)

# 福音と世界

2021年  
9

A5判・80頁・定価660円・送料70円  
 年間予約購読料(送料共)8760円

## 特集・技術との対話

イヴァン・イリイチにおける道真と技術のあり方―

―「ソフトウェアルな道真と公正な環境」安田智博

恐怖に抗つ―ポール・ヴィリリオと

軍事的なもの ―― 小泉空

技術的多様性はいかにして可能か? ―― ユク・

ホイのティヤール・ド・シャルダン批判について

中村徳仁

技術で障害を「なくす」という幻想 児玉真美

そんなことくらいにしか役に立ちそうもないと

いつかについて―知性(の新たななる)改善

入江公康

ついに発見されたポンペッファアのガンディー宛書簡

【新連載】

◆アジアの草の根平和の証し人……………宇井志緒利

【注目の連載から】

◆間隙を思考する 非同時代性のために 6……………田崎英明

◆古代イスラエル文学史序説 7……………勝村弘也

◆霊性のエロジ―あるいはアマリメテア 8 村澤真保呂

◆「Say a Little Prayer」開かれる世界 18……………栗田隆子

◆今を生きることば 18……………金迅野

◆新約釈義 第三モテ書 18……………辻 学

◆くまさんのシネマめぐり 21……………好井裕明

◆教文学入門 24……………土井健司